

お忙しくても、約 2 分間で読めます

ハートフル・ワード (心からの言葉)

山内公認会計士事務所

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

他社に真似されるような商品をつくる 辻 晴雄 (シャープ相談役)

1. 「人に真似されるような商品をつくれ」というのが、シャープの創業者・早川徳次の教えです。お客様に認められ、他社が追随したくなるような先進的な発明こそが、メーカーの極意であると説いたわけです。シャープには、世界で初めてという商品がたくさんあります。
2. シャープには「緊急プロジェクト制度」(通称緊プロ) というものがあります。一部門で手に負えない商品開発あるいは事業の立ち上げを、組織を越えて全社から適任の者を選んで、一気呵成に行うというものです。緊プロは社長直轄で、厳しく進捗状況がチェックされますが、一方で予算や人事面で特別な扱いを受けます。液晶を応用した商品の多くも、この緊プロから出てきました。
3. 緊プロは、住む世界が違う人たちが、どれだけ商品のコンセプトを共有できるか。それが創造的な商品をつくれるかのポイントです。この緊プロによって部門間の壁が低くなりました。風通しのいい風土が定着していきます。壁が低くなっていけば、高い目標に「なにくそ」と向かう執念も共有されます。シャープには、こうした独自の創造的な企業風土が、貴重な無形財産として受け継がれています。

(参考:「週刊東洋経済」2008年3月29日号)

ワンポイント経営アドバイス

高齢者数百人をまわり商品開発

1. 1995年、高齢者向けの靴「あゆみ」を発表した徳武産業(本社・香川県さぬき市)は、今では、年間50万足の「あゆみ」を販売する。県内の介護施設や老人病院を訪ねて高齢者の足を調べていった。その数、数百人。介護用品店や百貨店、量販店などを通じて販売した「あゆみ」は、評判が評判を呼んだ。高齢者のおかげで自分たちの会社が存在できる。十河孝男社長は感謝の思いを形に表したいと、購入日から2年間、顧客誕生日に合わせて社員の手書き(コピー)のカードと、タオルなどのプレゼントを送っている。
2. 老人ホームに入居した高齢者を親族が訪れる頻度は、2年目には最初の年から半減し、3年目にさらに半減すると言われる。身内が来なくなり、寂しい思いをしている高齢者は多い。そこで、子や孫のつもりで文面を考えているのだ。本社には、誕生日プレゼントに対する礼状が毎日届く。なかには、本人が死亡し、親族からの手紙が届くこともある。手紙を読むたびに「われわれは人生最後の靴を作っている。その責任は重い」と十河社長は語る。

(参考:「日経ベンチャー」:2008年6月号)

海外事情

少子高齢化が進む他のアジア諸国

1. 日本以外のアジア諸国でも、少子化問題は確実に進んでいる。中国やタイ、韓国、シンガポール、ベトナムといった国では、出生率が2割を割り込んでおり、明らかに少子化の傾向である。では、高齢化問題はどうかだろうか。2005年時点で日本は早くも高齢社会(65歳以上の人口比率が14%強)となっているが、中国、タイ、韓国、シンガポールも高齢化社会(65歳以上の人口比率が7%強)となっている。
2. これまでいわれてきたように、日本は少子高齢化のトップランナーである。しかし、他のアジア諸国も少子高齢化という大きなトレンドの中にあることは疑いない事実であり、日本が抱える大きな課題(少ない働き手で子供や高齢者をどう支えていくか)は他のアジア諸国も直面しつつある問題なのである。

(参考:「野村週報」2008年6月16日号)

古典に学ぶ

敬は勇を生ず

「敬は勇気を生ず」

(訳) 尊敬の一念から勇気がでる。

(参考:佐藤一斎「言志四録」):PHP文庫